

オペラ ベッリーニ「カプレーティとモンテッキ」  
(みつなかオペラ)



川西市文化・スポーツ振興財団提供

公募の歌手が充実の歌唱

兵庫県川西市のみつなかホールは年1度、2日間だけ地域のオペラ劇場になる。今年は第22回みつなかオペラとして、ベッリーニの「カプレーティとモンテッキ」が上演された。

川西市民オペラを前身に本格的水準の公演を重ねてきたみつなかオペラには、いくつかの独自路線がある

が、今回最も感慨深かったのは、500席弱の小規模ホールだけにナマの声が無理なく響き、公募オーディションで選ばれた歌手たちが充実した歌唱を聴かせたことだ。

なかでもジュリエッタの木澤佐江子は、鍛錬された美しいベルカントの声で、悲しみに沈みつつも自分の

立場を見失わない芯の強さ、不安や葛藤、懇願など多様な心情を豊かに表現して感動を呼んだ。相手役ロメオ(メゾンブラン)の橘知加子も、青年らしい力強い歌唱と演技で健闘。

有名なシェークスピアの戯曲を、若い男女の恋の純真さというより、当主カッペリオ(松森治)の和解を拒むかたくなさが招いた悲劇として描く作品だけに、恋敵テバルド(小林峻)、教育係ロレンツォ(萩原寛明)を含む男声アンサンブルが手堅く固められていたことも大きな支えになった。

オーケストラ(ザ・カレツジ・オペラハウス管弦楽団)はプロフェッショナルに安定した演奏。市民参加の合唱団にアマチュアらしい素朴さを残しつつ、全体が牧村邦彦指揮のもと、地域型オペラの楽しみを高水準で提供する立派な公演であったことをたたえたい。演出は井原広樹。

(関根礼子・音楽評論家)  
9月28日、川西市みつなかホール